

2025年度 京都保育福祉専門学院
自己評価及び学校関係者評価報告書

2025年3月
自己評価委員会

1. 学校の教育目標

キリスト教精神により保育奉仕者・社会福祉専門職者の養成に力を注ぐことを基盤として、社会状況の変化に対応した養成教育を行う。社会福祉に関する専門職員になるための必要な知識と技能を修得し、キリスト教精神により円満な人格と豊かな情操を養い、社会福祉事業に献身する事のできる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画（2022年度からの継続）

- ・保育、福祉の担い手を養成する上で根幹としてのキリスト教精神による教育の更なる推進。
- ・教育のあり方を改革し、更に幅広い学生が学べる学校になる。
- ・職業教育の充実を図り、実践的な職業教育の質の向上を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3

① 課題

- ・将来的に、保育士養成の在り方がどのようになってゆくのかわからない部分もあり、各省庁及び関係機関から発表されることに対して、取り組めるための準備をしておく。
- ・社会福祉法人立の専修学校としての強みを活かせるようにする。

② 今後の改善方策

- ・同法人の保育・福祉関係の事業所と連携を図りながら、学びの中により実践的な要素を取り入れること。

(2) 学校運営 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
------	------

目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業務や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・事業計画と実際の学校運営の実態には乖離がある。
- ・情報システム化等による業務の効率化が図られていない。

② 今後の改善方策

- ・事業計画は法人全体で協働する部分の見直しや修正をし、現在の学校運営に必要なことを強化できるようにする。
- ・教職員の業務標準化を定め業務の簡素化をし、多能工化的な働きをすることで、少ない教職員でも運営に支障がないようにする。

(3) 教育活動 ※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや療育方法の工夫や、開発などが実施されているか。	4
関連分野の企業の企業・関係施設等、業界団体等との連携によりカリキュラムや療育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野における実質的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等が体系的に位置づけられているか	4

授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・高校卒で入学する学生は、保育や福祉についての学びがなくこの業界に入ってくることが多く、学ぶ内容が専門的すぎると理解が乏しくなる。
- ・2年間で専門性を獲得するのが難しく感じる学生がいる。その学生へのフォローが必要である。

② 今後の改善方策

- ・連携施設職員を講師として授業を行い、実体験や考察などを聞くことで、社会福祉の現場に対するイメージをより具体的にもてるようにすることで、ギャップの軽減を図る。
- ・学びと実践が並行的にできるよう将来的にはリカレント教育の実践につなげられるようにしていく。

(4) 学修成果

※ 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・学生が各種実習に行くと、自分のスキルと現場で求められるスキルとのギャップに悩み自分が保育・福祉の現場に就職することを躊躇する。

② 今後の改善方策

- ・保育の業界では、キャリアパス要件が必須となり、保育士の専門性が求められることを伝える必要がある。また、学生自身が取得できる免許や資格はどのように活かしていけるのか具体的なイメージをもてるようにする。自身のキャリアパス形成について、興味をもち、修学意欲を高められるように、同法人の保育・福祉施設と協働して学生に情報提供をしていく。
- ・奨学金の取り扱いについて、当該学生のみではなく保護者とも話しをしていく。

(5) 学生支援 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・修学に対して問題を抱えた学生の保護者との情報共有ができていない。
- ・学生の生活環境の把握が難しい。

② 今後の改善方策

- ・修学に問題を抱えた学生自身の指導やフォローをする。また在学生を対象（高卒生）に三者面談をし、学生の現状を把握してもらい、修学へのフォローを家庭からしてもらおう。
- ・学生へのアンケートを実施し、学生の生活環境を把握する。支援が必要な場合は支援策を提案する。

(6) 教育環境 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3

学院外の実習施設、インターネット、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・ ICT 環境の更なる整備をすることが課題である。
- ・ 防災に関する備蓄等は準備できているが、学院の BCP が未作成である。

② 今後の改善方策

- ・ ICT 環境の整備やパソコン等整備を適切に行う。
- ・ 学院の BCP を策定する。

(7) 学生の受入れ募集 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ 18 歳人口の減少に伴い高卒者のみだけでなく、社会人等が学べるように教育課程の編成を行ったこのことを広くアピールし、多様な学生を対象としている学院の姿勢を効果的に行えていない。

② 今後の改善方策

- ・ 適時、広報会議を開催し教職員全員で広報活動を行うことを意識する。
- ・ 社会人が入学後のイメージが具体的にもてるように、学業優先でありながら家庭との両立ができるようスケジュールの提案をしていく。

(8) 財務 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定していえるといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

- ・ガバナンスの効いた社会福祉法人が経営しているので、予算・収支ともに妥当に計画され執行されているが、中長期的に強固な財政基盤ができているとはいえないので、経営基盤の安定が今後の課題である。

② 今後の改善方策

- ・消耗品はコスト意識を持ち、利用・調達をする。
- ・適切な予算の執行と適正な会計処理の実施。

(9) 法令等の遵守 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評 価 項 目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・自己評価委員会・学校評価委員会・教育課程編成委員会等の各委員会からの提言等が、学院運営に有効的に活用できていない部分もある。

② 今後の改善方策

- ・各委員会からの提言や助言内容を、教育課程編成に反映させるメリットを理解し、教員が教育課程に対する考えが同じ方向性をもち作成していく。
- ・法令遵守は基本となる法制度を教職員が理解し、日常業務に落とし込むようにする。

(10) 社会貢献・地域貢献 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評 価 項 目	評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域資源として開かれた学院のあるべき姿を具体的に示すことができていない。
- ・学生のボランティア活動への興味関心が低下している。

② 今後の改善方策

- ・施設を利用した地域活動を模索し計画する。
- ・学生がボランティア活動等の学外活動に積極的に関わられるよう、仲介やきっかけ作りを丁寧にしていく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

クラス担任制・ゼミ担当制を基盤に個別指導を強化し、一人ひとりの学びを支え退学者・留年者を極力出さないことを目標に取り組んだ。2024年祖は退学者は前年比55%減、留年者は88%減であった。修学意欲を継続して持たせることを主眼に対応してきたことで一定の成果を得たと考える。新年度の入学者は前年度比10%増加したが、定員充足率は60%である。

新たなカリキュラム編成、ゆとりのある時間割に取り組んだことで、既卒者・社会人入学者の増加につながった。今後も幅広い学生が学べるように教育の質を担保しながら、教育のあり方を改編していく必要があると考える。特にオンデマンド授業の導入は喫緊の課題である。

実践的な職業教育を教員と連携施設職員との協働し、内容を充実させていきたい。